

東北大学医学部保健学科 同窓会新聞

発行人 大森純子
 発行所 東北大学医学部保健学科
 仙台市青葉区星陵2の1
 東北大学医学部保健学科
 編集委員 同窓会新聞編集委員会
 奥村剛志、山田歩実、
 友野優梨、武石陽子

新任の先生のご挨拶

今年度に入り、新たに7名の先生が本学科に就任されました。ご挨拶を頂戴しましたので、ご紹介いたします。

看護技術開発学分野 教授 菅野 恵美 先生



2022年6月より看護技術開発学分野の教授を拝命いたしました菅野と申します。私は、東北大学病院に看護師として勤務した後、2006年4月に東北大学医学部保健学科看護学専攻の助手に着任し、その後、看護アセスメント学分野の助教、講師、准教授を経て現在に至ります。本学の保健学科は2003年10月に設置され、2004年4月に1期生を迎えましたので、私の教員としての歴史は保健学科と共にあり、多くの学生、教員、スタッフの皆様により、今がでございます。近年は、卒業生が大学院生や教員、東北大学病院看護師等の立場から本学の研究活動に参画する機会も増え、今後も知識や実践力の融合、チャレンジの支援に尽力していきたいと考えております。

私はこれまで、皮膚創傷治療過程に関する実験研究を一貫して行ってまいりました。臨床において、手術創などの急性創傷から褥瘡などの難治性創傷まで幅広い創傷ケアに取り組み中で、最も危険な合併症である創部感染を学術的に明らかにしたいと思ひ、研究の道志しました。これまでの研究活動において、知識や技術のみならず、臨床と基礎をつなぐ多くのノウハウについて、様々な分野の先生方よりご教示いただき、多くの真理探究の成果を得ることができました。今後は、「看護の視点からの臨床基礎の融合研究」を当分野のオリジナリティとして深めていきたいと考えております。

さらに、これまで得た成果を活かし、大学病院や医学系研究科のスペシャリストと連携し、異分野融合、産学官連携により、レジリエントな社会の実現に寄与する新たな看護技術の創出に挑戦したいと考えております。アカデミックな研究内容をディスカッションする場に加え、高度看護実践者、療養者、企業の開発者、生活環境のデザインに取り組む自治体の担当者等と定期的に対話する場を設け、現場や社会のニーズを的確に捉えた技術創出を目指します。学生の皆さんが、課題を解決する基礎体力・知力と共に、変化を捉えレジリエントに対応できる力を獲得できる環境創りに尽力いたします。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

画像解析学分野 講師 小田 桐 逸人 先生

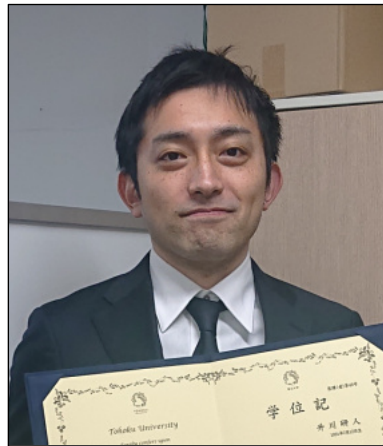


2022年4月から保健学専攻画像解析学分野の講師として着任いたしました小田桐と申します。

2003年に本学を卒業し、東北大学病院で19年間診療放射線技師として診療に携わってまいりました。病院では臨床検査の他、研究や学生実習教育を行ってまいりました。当分野の金田教授とは病院でも一緒に仕事をさせていただき、今度は教員として一緒に働くことができることを光栄に感じております。

病院で臨床業務を行いながら、学位取得、研究、学会発表、論文投稿などスキルアップしていくことは非常に大変で、自己犠牲と周囲の協力が必要になります。それでも、スキルアップすることで見えてくる世界があります。学会発表、研究成果により、全国の放射線技師とつながりができ、情報共有や共同研究ができるようになります。また、学位を取得することで教員や、企業の研究職といった職種の選択肢が増えます。東北大学の卒業生の皆さんにはそういった経験を積んでいただきたいと思っております。また、それを実現できる人材だと思っております。教員として不慣れなところもありますが、学生の皆様と一緒に新しい経験を積んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

緩和ケア看護学分野 助教 升川 研人 先生



2022年4月より、緩和ケア看護学分野の助教に着任いたしました升川研人と申します。私は秋田県横手市出身で、東北大学医学部保健学科看護学専攻へ進学し、卒業しました。大学卒業後は、国立がん研究センター東病院の呼吸器病棟にて看護師として勤務し、その後、東北大学大学院医学系研究科保健学専攻にて学位を取得いたしました。

主な研究テーマは「緩和ケア領域における人工知能(AI)や自然言語処理応用」「緩和ケアの質評価」です。博士課程では電子カルテ内の自由記述から終末期がん患者の全人的苦痛(身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルペイン)を自動評価する機械学習モデルを開発しました。その他にも現在、緩和ケア領域における複数のAI研究に関わっております。医療情報学×機械学習×自然言語処理×緩和ケアの異分

野融合研究を今後も推進していく所存です。学生の皆さんとは、成人看護学の講義/実習、大学院の講義や研究活動を通してお会いする機会があるかと思ひます。私もまだまだ学びの途中段階ですので、学生の皆さんと一緒に学びながら、成長していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

老年・在宅看護学分野 助教 中本 五鈴 先生



令和4年4月に老年・在宅看護学分野の助教に着任いたしました中本五鈴と申します。私は、出身は大阪で、京都大学を卒業後、京都大学病院で看護師として勤務し、その後京都大学大学院に進学し、令和4年3月に生活環境看護学の研究室で博士号を取得しました。また、博士課程の最後の1年間は、東京都健康長寿医療センター研究所の社会参加と地域保健研究チームで非常勤研究員をしておりました。

博士課程で行ってきた研究は、主に2つです。1つ目は、体内時計を整える上で大切な日中の光に着目し、日中の明暗環境の違いが尿生成の日内リズムに及ぼす影響に関する実験室研究です。この研究で、日中に明るい光環境で過ごすことが、尿生成の日内リズムの位相を前進させることを明らかにしました。2つ目は、実験室研

究の結果を地域で暮らす高齢者で検証するために、腕時計型活動量計で測定した光曝露量と夜間排尿による中途覚醒との関連をコホート調査のデータを用いて分析しました。この研究で、朝の光曝露量が多いほど、就寝後に1回目の夜間排尿で覚醒するまでの時間が長くなるという関連が明らかになりました。環境を整えることで、人々の生活の質を少しでも良くできないかと考え、これまで研究に取り組んでまいりました。

現在、老年・在宅看護に関して新たに学ぶことが多く、また、実習を通して学生の皆さんから気づきや学びを頂きながら刺激的で楽しい日々を過ごしております。これから、私が学んできた生活環境看護学の視点をいかしつつ、老年・在宅看護の教育や研究に貢献できますように、精進してまいります。至らない点が多いと存じますが、皆様、ご指導ご鞭撻のほどお願ひ申し上げます。

画像診断学分野 助教 小林 智哉 先生



2022年4月より画像診断学分野の助教として着任いたしました小林と申します。私は京都医療技術短期大学という診療放射線技師の養成校を卒業後、22年間臨床で勤務してまいりました。勤務した病院は、中規模の公的病院、中規模の私立病院、大規模の公的病院と様々で、多くの臨床経験を積む

ことが出来ました。その間に茨城県立医療大学大学院で博士課程を修了し、2020年9月から茨城県立医療大学に助教として着任したことで教員人生が始まっています。主な専門分野はMRIと死亡時画像診断(オートプシーイメージング・Ai)、画像情報学です。特にAiは以前勤務していた筑波メディカルセンター病院で推進していたこともあり、国際的な活動も行ってきました。画像診断学分野は人工知能(AI)の研究が進められています。AiとAIは混同しやすいですが、今後は大きいAi(I)と、小さいAi(i)のいずれも扱う、愛(Ai)のあ教育、研究の活動をしたいと思っています。

学生の皆様には現場を多く知る診療放射線技師の先輩として、実臨床で役立つ知識や技術を提供したいと考えています。また研究では、臨床と研究の懸け橋になり、より多くの方が幸せになれるような研究活動に邁進したい所存です。まだまだ教員としては未熟ですが、どうぞ宜しくお願い致します。

病理検査学分野 助教
岩淵 英里奈 先生



2022年4月に病理検査学分野の助教に就任しました岩淵と申します。私は、本学検査技術科学専攻の2期生として卒業し、その後本研究科の技術補佐員として病

理業務に携わりました。在職時、所属研究室の皆様のご支援もあり、社会人大学院生として大学院へ進学し、医学博士を取得しております。学位取得後は日本学術振興会の特別研究員、本研究科病理診断学分野の助教をつとめた後、現職に至ります。

これまでは主に乳癌を対象として、タンパク質間相互作用の可視化技術を用いて、新しい病理検査法を構築すべく研究を進めてまいりました。乳癌病理診断において免疫染色などの病理検査が治療薬の適用を決める上で極めて重要な検査法となっております。治療法選択のためのグループは様々に変化し、個々の症例に適した治療が検討されており、私はその個別化医療の一助となる検査法を目指しています。

前職でも、卒業研究や臨地実習などを通して学生の皆さんの指導に携わってきましたが、今回出身学科の教員に就任したことは嬉しくもあります。改めて身の引き締まる思いです。教員として学生の皆さんの学びをしっかりと支え、保健学科の発展に貢献できるように邁進してまいりたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

ウイメンズヘルス・周産期看護学分野 助手
櫻井 碧 先生



本年度4月よりウイメンズヘルス・周産期看護学分野の助手に就任いたしました櫻井と申します。

私は本学部を12期生として卒業後、慶応義塾大学病院にて助産師として勤務しておりました。この度ご縁があり、教員として本学に所属することになり、大変嬉しく思います。先日、よく学友たちと勉強した図書館に足を踏み入れたところ、慣れ親しんだ机が残っており、思わず学生時代を想起させられました。

現在、教育活動としては主に母性分野の実習に携わらせていただいております。活気溢れる学生の皆さんとの交流の機会は新鮮で、少し若返ったような気分です。このような社会状況の中ではありますが、臨床現場での実習を通じて、多くの学びを提供することが出来るよう精進してまいります。

研究に関しては、学部生時代より研究しておりました親子の愛着をテーマに取り組んでいるところです。愛着形成は子供の将来的な対人関係の構築と精神症状の発現に関連があるとされており、この研究に取り組むことにより次世代の健やかな発達に貢献出来ればと考えております。

放射線治療学分野 助手
高城 久道 先生



今年度より放射線治療学分野の

助手に着任いたしました高城と申します。私は2018年3月に本学放射線技術科学専攻を卒業、2020年3月に本研究科放射線治療学分野の博士前期課程を修了し、修了後は医療機器を扱うソフトウェア会社で約2年間医療AIの開発などに携わってきました。2022年4月に本研究科放射線治療学分野博士後期課程の社会人大学院生として入学すると同時に現職に就任し、教員としての業務と大学院生としての研究活動の両立を目指して取り組んでおります。在学中にご指導いただいた先生方とともに学生の指導にあたる立場となり、身が引き締まる思いです。現在は博士前期課程での研究テーマを発展させる形で、放射線治療における副作用の低減を目的として可視化が難しい体内の臓器の位置を推定する技術の研究を行っています。

2022年度
オープンキャンパス

昨年度まで新型コロナウイルスの影響によりオンラインのみで開催されましたが、今年度は無事対面での開催が叶いました。約3年ぶりの対面開催となり、感染症対策として、規模縮小のため事前申込み者を対象とした抽選制による開催となりました。参加できなかった方のためにオンラインでも開催され、ホームページは下記URLからご覧いただけます。

URL
https://www.med.tohoku.ac.jp/admission/seminar/oc/health_shinaku/

各専攻代表者より活動の様子や感想をお伺いしましたので、ご紹介いたします。



実行委員 看護学専攻4年
田中 智理

看護学専攻では、学生相談、妊婦体験、高齢者体験、若手教員からの話題提供コーナーの4つの企画を行いました。

学生相談のコーナーは、入試や大学生活などについて看護学生と自由に話せるというコーナーでした。高校生と看護学生が楽しく会話している様子がみられ、「看護学専攻の魅力を知ることができた」「受験勉強について参考になった」などの感想が聞かれました。



妊婦体験のコーナーは、赤ちゃんの抱き方や妊婦の体験を行いました。実習で学ぶことを実際に体験することによって、実習のイメージを少しでももってくれたのではないかと思います。



高齢者体験のコーナーでは、高齢者の視覚・聴覚・四肢の動作についての体験を行いました。若い高校生としての感覚から一転して高齢者の身体を体験することで、「お年寄りとは思った以上に辛い」「優しくしなきゃいけないと思う」などの感想が多く聞かれました。



若手教員からの話題提供コーナーでは、ウイメンズヘルス・周産期看護学、公衆衛生看護学、がん看護学分野の3名の先生からそれぞれの研究分野についてお話を伺いました。高校生の皆さんはメモを取りながら集中して講義を聞き、入学後のイメージがより深められたのではないかと思います。



多くの高校生が訪れてくれ、楽しんでもらいながら看護学専攻の魅力が伝えることができたのではないかと思います。

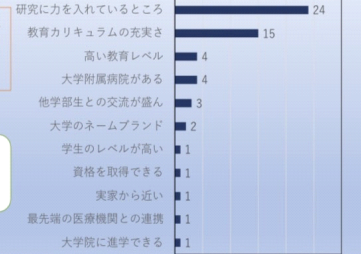
実行委員 災害放射線医学分野修士1年 磯部 理史

今年度のオープンキャンパスは、オンライン形式に加え、新型コロナウイルス感染症防止対策に十分配慮した上で、対面形式でも開催されました。オンラインオープンキャンパスでは、ツアー動画、研究室紹介、新コンテンツの「放射線専攻の魅力って？」など、本専攻を志望する学生に少しでも多くの情報を提供できるような内容を企画しました。

また、対面形式は感染拡大後初の試みでした。今年度の医学部・

Q 東北大学（放射線専攻）魅力は？

・研究に関心を持っている学生が多数
・専門科目や実習が充実しているのも魅力の一つ！



先進医療を行う大学病院で実習できるのも魅力的！



医学系オープンキャンパスは川内北キャンパスが会場であり、定員を設けたツアー形式での開催であったため、これまでのプログラム構成から大きく変更する必要がありました。放射線専攻では、参加者に普段学生がどのようなことを学んでいるのかを知ってもらえるように、模擬講義の他にも体験コーナーのような実践的なブースを企画しました。

また、学生相談では、学生生活や受験勉強についての質問に対し、学生が具体的なアドバイスをしており、参加後アンケートでは多く



の好意的な感想が寄せられました。本オープンキャンパスを通して、少しでも本専攻に興味を持っていただければ幸いです。

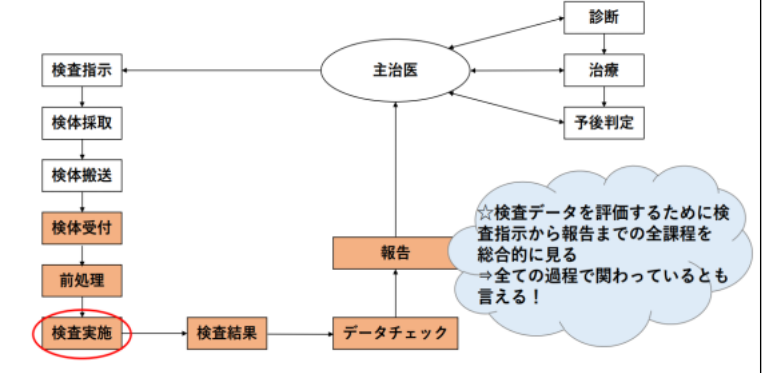
最後になりましたが、今年度オープンキャンパス開催にあたり、学部生や大学院生を始め、卒業生、教員、本学職員の皆様には、多大な協力をいただきました。この場を借りて心より御礼申し上げます。



実行委員 検査技術科学専攻3年 西條 絵莉香

今年度の医学部・医学系研究科

1-1. 診断から治療までの流れ 臨床検査技師が関わる範囲



のオープンキャンパスは、対面とオンラインのハイブリッド形式での開催となりました。

検査技術科学専攻では、オンライン企画として専攻紹介、検査専攻についてのQ&A、学部生・大学院生へのインタビュー、企業等に就職された先輩方へのインタビュー、大病院の技師さんへのインタビュー、検査専攻の各分野紹介のそれぞれについてのコンテンツを作成し、医学部・医学系研究科のホームページに



ジに掲載しました。

対面オープンキャンパスでは学生による専攻紹介、学生相談会、内分応用医科学分野の廣瀬先生による模擬講義を企画、運営しました。対面企画の学生相談会と専攻紹介では、本専攻への進学を検討している参加者の「生の声」を聞き、実際に在籍している我々学生の「生の声」を届けることができるといふ対面開催のメリットを実感しました。

3年ぶりに対面で開催され、昨年や一昨年もコロナ禍以前のオープンキャンパスとも異なる形式で行われた今年度のオープンキャンパスでしたが、時間をかけて準備をした分、オンラインと対面それぞれの利点を活かしながら、検査専攻に入学する前、在籍中、卒業後についての生きた情報を参加者に届けることができましたのではないかと思います。今回のオープンキャンパスで少しでも本学、本専攻について知っていただければ幸いです。



最後になりますが、教員、教務係、大学院職員、卒業生、学部生、大学院生の皆様のご協力がなければ、今回のオープンキャンパ

スは成立しませんでした。この場をお借りして、オープンキャンパス開催にあたりご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

ウェアセレモニー

看護学専攻3年 丹治 明日香



今年度は、令和4年7月4日に看護学専攻のウェアセレモニーが行われました。代表を務めました学生さんの決意表明の言葉を紹介いたします。

6セメスターから始まる領域別実習に先立ち、本日から基礎看護学実習が始まります。私はこれまでの大学での講義や看護助手のアルバイトを通して看護についてたくさん学び、考えてきました。様々な経験を通して、皆さんの知らなかった世界を知り、どのような形で看護に関わりたいか迷っているところです。私はこれから看護にどのような形で関わり、どのように社会に貢献していくべきか、見つめ直したいと考えています。実習は取り組み次第で、得られるものが大きく変わってくると思うので、常に向上心を持って取り組む気持ちを忘れないようにしたいです。多くの規制がありますが、逆になんか生活の中



でしか学べないことも多くあり、このコロナ禍で看護を学んだ私たちにしか学べなかったことや、生まれなかった気持ち、考えがたくさんあるのではないかと感じています。特に「直接会って、触れ合う」ということにたくさんの制限がかかっている世の中において、私は直接的な関わり的重要性を感じました。初めて患者さんと深く関わらせていただける機会となる基礎看護学実習においては、患者さんとの直接的な関わり1つ1つを大切に、看護師として働く



上で大切なこと、そして自分が看護師としてできることは何かを考へながら実習に取り組んでいきたいと思えます。

最後になりますが、常に、実習をさせていただけることへの感謝の気持ち、何を学びたいのかという目的意識、そして自分なりの目標を持って、実習に取り組んで参ります。

寄付金購入品



令和5年、2023年には保健学科設立20周年・保健学専攻15周年の記念すべき年になります。そこで、少し早いですがその記念として、保健学科同窓会より保健学科A棟大講義室、第一講義室の音響の更新費用の一部を支援させていただきます。

コロナ禍においてこれらの大きな講義室に学生さんたちがぎゅうぎゅうにひしめき合うというのはもはや心象風景となりつつあります。



すが、感染対策を実施したうえでの講義や講義室からのオンライン配信など新しい形できれいな音声が響くことを願っております。

また2021年度では検査技術科学専攻に実習室の丸椅子(5脚)とマイク・スピーカーのセットを、放射線技術科学専攻には実験室の椅子(40脚)を寄贈いたしました。

実習室や実験室で使用している椅子は老朽化が目立っており、また実習室は80名以上収容可能な広さであるにも関わらずマイクが設置されていませんでした。この度の寄贈が保健学科の学内環境の一助となれば幸いです。

人事異動

令和4年度上半期に行われた人事異動についてご報告いたします。

- 看護技術開発学分野
 - 教授 菅野 恵美先生
 - 昇任(令和4年6月1日)
- 画像情報学分野
 - 教授 増谷 佳孝先生
 - 着任(令和4年9月1日)

- 公衆衛生看護学分野
 - 講師 藤崎 万裕先生
 - 退職(令和4年5月31日)

- 緩和ケア看護学分野
 - 講師 青山 真帆先生
 - 昇任(令和4年4月1日)

- 画像解析学分野
 - 講師 小田桐 逸人先生
 - 着任(令和4年4月1日)

- 放射線検査学分野
 - 講師 稲葉 洋平先生
 - 着任(令和4年4月1日)

- 緩和ケア看護学分野
 - 助教 升川 研人先生
 - 着任(令和4年4月1日)

- 老年・在宅看護学分野
 - 助教 中本 五鈴先生
 - 着任(令和4年4月1日)

- 公衆衛生看護学分野
 - 助教 原 ゆかり先生
 - 昇任(令和4年4月1日)

- 画像診断学分野
 - 助教 小林 智哉先生
 - 着任(令和4年4月1日)

- 病理検査学分野
 - 助教 岩渕 英里奈先生
 - 着任(令和4年4月1日)

- ウイメンズヘルス・周産期看護学分野
 - 助手 櫻井 碧先生
 - 着任(令和4年4月1日)

- 放射線治療学分野
 - 助手 高城 久道先生
 - 着任(令和4年4月1日)

お知らせ



2023年度3月をもちまして、保健学科同窓会新聞の紙媒体での配布の終了と、医学部保健学科同窓会ホームページをリニューアルいたします。今後はホームページに新聞の内容を随時アップしていきますので、ぜひチェックしてみてください。

保健学科同窓会新聞は2008年度から発行しており、下記URLからご覧いただけます。

保健学科同窓会URL：
<http://www.hoken.alumni.med.toho.ku.ac.jp/index.html>

編集後記

第27回となる同窓会新聞も、ご協力いただいた皆様のおかげで、無事に発行することができました。お忙しい中、寄稿してくださった先生方、学生の皆様、また写真を提供してくださった本間様はじめ医学部広報室の皆様にご心より感謝申し上げます。

さてこの編集後記を埋めるため、今年度から保健学科同窓会役員として就任した奥村が筆をとらせて

いただきます。

今回の記事の中で取り上げましたが、オープンキャンパスが無事対面開催となり、本当に喜ばしい限りです。ところで、オープンキャンパスを初めて開催したのはどの大学かご存じでしょうか。1988年に立命館大学が「オープンキャンパス」という名称で開催して以降、全国の大学で開催されるようになりまして。それ以前は進学相談会やオープンカレッジ等の名称で行われていたのですが、オープンキャンパスでは大学施設の見学ツアーや模擬授業等、イベントとして受験生を受け入れる体制が整えられました。その後2000年代からオープンキャンパス参加を義務付ける高校が増え、現在ほとんどの高校生がオープンキャンパスに参加するようになりました。

私が東北大学に入学後、3年生の時、展示室の係として運営する立場になりました。高校生が実際に私たちが使っている教科書を眺めたり、大学生活の説明を熱心に聞いていたり入念に準備してよかったです。大学生活のことだけでなく、さら

にその将来、就職を考えて質問されることも多く、逆に自分も将来について考える良い機会だったと思います。オープンキャンパスは多くの方がその大学について知ることができ、特に受験生の方にとっては受験への志が高まるものですが、大学生にとっても良い刺激になる機会となるように感じました。

来年の3月に発行される28号もぜひ楽しみにお待ちいただけますと幸いです。皆様お体には気を付けてお過ごしください。

医学系研究科保健学専攻
博士前期課程
奥村剛志、山田歩実